

亀山本徳寺御正忌報恩講の行事



真宗文化研究会による初日のお勤め

御正忌報恩講は1月13日の逮夜から16日の日中まで勤まります。

初日13日は、真宗文化研究会の若手僧侶が一同に参勤し、本徳寺の報恩講を舞台に正調の勤行が勤められます。一年間の研修を経てその成果の発表でもあります。

この行事に本徳寺のコーラス部が協賛して、仏教讃歌を奉納します。

本徳寺コーラス部による仏教讃歌



15日の報恩講式拝読



15日午後2時から報恩講式が厳修されます。覚如上人の作文になる報恩講私記と存覚上人ご自作の嘆徳文が、伝統的な本願寺の伝統に則り報恩講作法として厳かに読み上げられます。

この行事が御正忌報恩講の中核となるもので、五百年前に本徳寺が開創されてから毎年欠かさず勤められてきた仏事です。

嘆徳文では、親鸞聖人のご生涯の行徳を、真宗興行の徳、本願相應の徳、滅後利益の徳に開闢して、格調の高い読誦法により表白されます。

奥書院での抹茶接待



13日の午後は内道場が内観でき、隣接の奥書院で抹茶の接待や法宝物の展示がされます。

年に一度、寒い時期ではありますが、内道場の親鸞聖人のまえで、お念仏の教えを私に届けてくださったご苦勞に深く心を致し、信心歓喜の裡に感謝のお念仏を称えさせていただきます。その後に、奥書院の抹茶の一服はなかなか風情のあるものです。